

■宗茂の主な年表

西暦	年齢	出来事
1567年	1	大友宗麟の家臣・高橋紹運の長男として生まれる
1581年	15	戸次道雪の養子となり、道雪の娘の闇千代を妻とする。立花城に入り、家督を継ぐ
1586年	20	島津軍のすきを突いて、高鳥居城を攻略。豊臣秀吉に「九州一の武将」と称えられる
1587年	21	豊臣秀吉に筑後国山門郡、三潞郡、下妻郡（現在の筑後市の一部）の領地を与えられ、柳川城主となる
1600年	34	西軍側につき、大津城攻めで活躍するも、主戦場の関ヶ原で西軍が敗れたため、改易。以後6年に及ぶ牢人生活を送る
1606年	40	2代将軍徳川秀忠に奥州南郷を領地として与えられ、大名に復帰する
1614～15年	48～49	大坂の陣に幕府方として参戦。江戸幕府が豊臣家を滅ぼす
1620年	54	筑後国を治めていた田中家が断絶。宗茂の柳川再封が決定
1621年	55	大名として20年ぶりに柳川に戻る
1638年	72	徳川家光の命令で天草・島原の乱に加わる。宗茂最後の戦場
1642年	76	江戸で亡くなる。76歳

立花宗茂 柳川再封 400年



市は、立花宗茂とその妻闇千代の生涯をNHK大河ドラマにするために、招致活動をしています。これは、まだあまり知られていない柳川の一面を再発見してもらおうことや、先人の歴史から地域に誇りを持ち郷土愛を醸成することを目的としたもの。義を貫き、家臣や領民から慕われ、困難に負けることなく、唯一旧領に返り咲いた宗茂。彼のドラマチックな生き方は多くの人に勇気や希望を与えるはずで、また、宗茂が活躍した舞台は、柳川だけでなく、九州全域にまで及びます。招致活動も市内だけでなく市外へと広がっています。

平成29年に始まった招致活動は少しずつ実を結び、宗茂はNHKの人気番組「英雄たちの選択・プロが選ぶ最強の戦国武将」で九州ブロック1位に選出。その知名度は徐々に向上しています。また、歴史の専門家だけでなく、ゲームなどにより若い世代にもその人気は拡大中です。

幅広い世代を魅了する宗茂の生きざまを振り返り、大河ドラマ実現に向けて一緒に盛り上がりませんか。

初代柳川藩主立花宗茂（1567～1642年）は、豊臣秀吉や徳川家康からも信頼され、関ヶ原の戦い後改易（領土没収）されるも、旧領復帰を果たした唯一の大名と伝えられています。一度領土を失った大名が再び元の領地の大名として復活するのは奇跡に近いこと。今年、宗茂が改易後20年ぶりに柳川に下向して400年の節目の年。今回は、400年後に生きる現代の私たちも学べる宗茂の生きざまやその魅力を紹介します。



「嶋原御陣図」 福岡県（伝習館高校）所蔵・柳川古文書館寄託

4 宗茂のリーダーシップ

徳川家康は、大坂の陣の際、立花宗茂は戦上手で裏表のない人物だと考え、秀忠の側につけたと言われています。当時、立花家の軍勢は他家の2倍、3倍の働きをされると言われていましたが、宗茂はその理由を、「家臣をひいきせず、無理強いして働かせず、慈悲を加えているので、皆一生懸命働き、それが私の功績となるだけです」と答えています。宗茂は真のリーダーシップを持っていました。



「立花宗茂像（部分）」 センチュリー文化財団所蔵・慶應義塾大学附属研究所斯道文庫寄託

5 将軍秀忠・家光の信頼

大名として復活した宗茂は、2代将軍秀忠、3代将軍家光の側に仕えました。晩年、宗茂は、江戸城内や家光の前でも、帽子と杖をつくことを許されるほど、家光の信頼を勝ち得ていました。それは、どんな人の前でも動じず、人にこびない宗茂の生きざまがそうさせたのでしょう。1637年に勃発した天草・島原の乱では、家光は72歳の宗茂に出陣を要請します。この時、実際の戦場を知る武将はほとんど他界し、宗茂の経験が必要とされたからです。この原城攻めが宗茂にとって最後の戦場となりました。

宗茂を知る 5つのエピソード

義を貫き、家臣や領民にも慕われた宗茂。その人柄や強さが分かる5つのエピソードを紹介します。

1 西国無双の戦国武将

15歳で家督を継いだ宗茂。15歳の初陣から72歳の原城攻めまで生涯無敗と言われています。1586年、九州平定をもくろむ薩摩（鹿児島）の戦国大名島津氏が立花城を包囲した際、宗茂は逆に島津方の星野氏が守る高島居城を攻め落とします。それにより、豊臣秀吉から「九州一の武将（西国無双）」と賞賛され、翌年、柳川城主に任命されます。宗茂がまだ20歳のころです。



「立花宗茂所用甲冑」（公財）立花家史料館蔵

2 実父紹運・養父道雪の教え

実父高橋紹運・養父戸次道雪は共に、衰退する主家大友家を支え続けた武将です。実父紹運は、宗茂を道雪のもとに養子に出す際、家宝の剣「長光」を与えて「今後は道雪公を父と思い、もし自分が道雪公と敵味方の間柄となったときはこの剣で討ち取るように」と言ったとされています。宗茂が関ヶ原の戦いで、秀吉の恩に報いるため西軍につき、義を貫いたのは、この2人の父の影響かもしれません。

3 6年に及ぶ忍耐の日々

関ヶ原の戦い後、柳川城を明け渡し退去する宗茂に対して、道をさえぎって止めた領民。また、家臣は宗茂の6年に及ぶ牢人生活を支えました。家臣の中には、他の大名からの高禄での仕官を断ってまで、宗茂に従った者もいました。また、宗茂自身も無為に過ごさず、刀の免状をとるなど自己鍛錬を怠りませんでした。

総合的な学習の時間で立花宗茂を学んだ児童に感想を聞きました



蒲池小学校6年 下園 裕人さん

隠し事をせず家臣に信頼された宗茂公

宗茂公のことは知っていたけれど、授業で学んでもっとすごい人だったことが分かりました。宗茂公の、隠し事をせず、家臣から信頼されていたところがすごいと思います。当たり前のことを当たり前にしていくことを見習いたいと思いました。



蒲池小学校6年 大淵 結心さん

ぜいたくをしなかった宗茂公が好き

柳川にこんなにすごい人がいたと初めて知りました。宗茂公は、戦がとても上手で、弓矢の達人。大名ではなくなつたときに、ぜいたくをしなかったところがいいなと思いました。

柳川の魅力に気付かせてくれた宗茂公

私は、京町地区の氏神様である金剛院（稲荷山観音寺金剛院）を通して立花宗茂公を知りました。宗茂のすごいところは、九州から最終的に江戸で影響力を与える地位にまで上りつめ、将軍家の厚い信頼を得たところだと思います。文化や芸術に長けていたからか、家臣を大事にしていたからか、人柄なのかは分かりませんが、どんな人にも親しまれ、愛されるキャラクターだったのではないのでしょうか。柳川には、古文書館などに旧立花家文書を中心とした貴重な史料が残っています。育つたまちの歴史は、育つた人で伝えていきたいです。私が金剛院からきっかけを得たように、宗茂を知ることが私たちのまちの歴史を知るきっかけになればいいですね。



吉田 秀樹さん（京町、67歳）

2/28
開催

立花宗茂公柳川復帰 400 年記念イベント

県と市は、西国無双と言われた宗茂の柳川復帰 400 年を記念して、イベントを開催します。イベントは、宗茂公御国入りと午後は記念講演、トークセッション、トークショーの 3 部構成。皆さんの参加をお待ちしています。

- 日時 2月28日(日)、▷宗茂公御国入り(川下り)＝午前11時～11時30分▷講演・トークセッション・トークショー＝午後1時30分～4時15分
- 会場 市民文化会館白秋ホール
- 料金 無料
- 申込方法 右のQRコードを読み取り、応募フォームから申し込み。

ムから申し込み。また、市役所柳川庁舎2階観光課で配布している申込用紙に必要事項を記入し、(株)イベントシンクプロモーション立花宗茂柳川復帰400年記念イベント係(TEL 093・647・1118)にファクスで申し込み可

- 申込期限 2月12日(金)
- ※応募者多数の場合は抽選。抽選結果は、イベント1週間前までにメールまたはファクスで連絡します。
- 【問】市観光課(☎77・8563)、イベントシンクプロモーション(☎093・647・1117)



応募フォーム



スペシャルゲスト
陣内孝則さん

宗茂公御国入り(午前11時～)

スペシャルゲストは俳優の陣内孝則さん。陣内さんが宗茂公に扮し、川下りで登場します。



加来耕三さん

第1部

記念講演(午後1時30分～)

柳川観光大使の加来耕三さんによる「復活の大名立花宗茂に学ぶ現代の生き方」と題した講演会を開催します。

第2部

加来耕三氏と立花宗茂・閻千代ファンによるトークセッション(午後3時～)

「立花宗茂の魅力とは」をテーマに、加来耕三さんやタレントの中島浩二さん、立花史料館イメージキャラクター閻千代姫の前田友香さん、同館の植野かおり館長がトークを繰り広げます。



中島浩二さん

第3部

陣内孝則氏によるトークショー(午後3時45分～)

最後の第3部は、陣内孝則さんによるトークショーを開催します。

宗茂と閻千代をめぐるスタンプラリー開催

宗茂の柳川復帰400年の節目に合わせて、県は、「立花宗茂と閻千代の歴史をめぐるスタンプラリー」を開催します。スタンプを全て集めた人から抽選で賞品をプレゼント。詳しくは、県の公式サイトで確認してください。

- 対象期間 2月1日(月)～28日(日)

【問】県観光振興課(☎092・643・3429)



スタンプラリー

三柱神社(三橋町高畑)

1826年、9代藩主立花鑑賢が建立。立花宗茂、閻千代、戸次道雪の三柱を祀っている。また欄干橋の親柱の上にかぶせた、飾りの金物「擬宝珠」は、もともとは柳川城に架かっていた橋のもので「慶長四年」の銘文が刻まれている。



柳川に残る宗茂ゆかりの地



宗茂が治めていた柳川には、宗茂や妻・閻千代を祀った神社など、宗茂にゆかりのある場所が現在も残っています。天気の良い日は外に出てまち歩きをしてみませんか。柳川まちあるきマップで紹介されている中から3つを紹介します。



まち歩きマップ

福厳寺(奥州町)

立花家の菩提寺。もともとは立花山の麓にあり梅岳寺(曹洞宗)と称していたが、三代藩主の時に梅岳山福厳寺(黄檗宗)と改められた。本堂裏には歴代藩主を祀った御霊屋がある。



良清寺(西魚屋町)

宗茂の妻、閻千代の菩提寺。宗茂が閻千代を弔うために、柳川再封後すぐの1621年に建立した。お寺には、閻千代の墓など立花家ゆかりの墓がある御霊屋がある。



宗茂がさらなる観光振興のきっかけに

柳川観光ガイド
戸島 隆宏さん



地元柳川を盛り上げたいという思いから観光ガイドを始め、今年で20年になります。以前より、テレビの効果もあってか、立花宗茂・閻千代の知名度は上がってきているように感じます。今の柳川は立花家なくしてありません。大河ドラマの招致を実現させ、それが観光発展の起爆剤に、そして市民を一つにするきっかけになればいいと思います。そのためには、観光に携わる人だけでなく、市民全員で盛り上げていかなければなりません。たくさんの人に柳川の魅力伝えて、柳川ファンを増やしていきたいです。